

文章題テスト・小説(5)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

台風が近づいていた。古い木造もくぞうの家が、ミシミシゆれてきた。大つぶの雨が、茶の間のガラス戸に強く打ちつけている。

の夏休みだというのに、泳ぎにも行けやしない。外にも出られない。力があ
まってる、ため息ばかりついていた。

ぼくの名前は、黒崎くろさきタケル。小学五年生。家は、茨城いばらき県の太平洋に面した港のすぐそばで、代々、漁師りょうしをやっている。

港に船のようすを見に行った父ちゃんと兄ちゃんが、雨ガッパをびしょぬれにしてもどってきた。母ちゃんが、父ちゃんにタオルをわたしながら、心配そうにたずねる。

「港はどうだった？」
父ちゃんは、日焼けしてしわのよった顔に白い歯を見せ、おちついて答えた。

「ああ、ロープを何十本もわたして、ぜんぶの船を固定してあるからだいじょうぶだ。もうすぐ台風は行っちゃまうだろうしな。明日は、まだ波が高くて漁はできないが、あさってはでるぞ、マモル。」

かみを金髪きんぱつにそめた兄ちゃんが、「よっしゃ」とうなずく。こういう男どうしの会話って、かっこいい。「海の男」っていう感じがする。

それでぼくは、思わず父ちゃんにかけよると、まっすぐ目を見てたのんだんだ。
「じゃあ、こんどこそ、ぼくも船に乗せてよ。いいだろう？ 五年生になったんだもの！」
小さいころから、漁にでる船に乗りたくてたまらなかった。五年生の夏休みになったら乗せてやる、というのが、前2からの約束だったんだ。

「うーむ。そうだな、そろそろいいか。だが、じゃまだけはするんじゃないぞ。漁はタイミングが勝負だから。」

「はい！」
全身がピリピリするほどうれしい。とうとう、ぼくも漁にでられるんだ！

(高橋たかはしうらら「シラス漁にチャレンジ！」より)



1 に当てはまることばとして最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア あいにく イ さっそく ウ けっきょく エ せっかく

「あいにく」は、期待はずれなようすを表す言葉。「あいにくの雨で、泳ぎに行けない」のように使う。

2 線1「日焼けしてしわのよった顔に白い歯を見せ、おちついて答えた」からは、「父ちゃん」がどのような人であることが読み取れますか。最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 長い間海で働いてきた、たくましく頼りがいのある人。

漁師の仕事で日焼けしているようすや、台風にあわてないどっしりしたようすを読み取る。「白い歯を見せ」は、笑顔を表している。

イ 長い間海で働いて年老いた、弱々しく元気がない人。

ウ いつもふきげんな顔をした、きびしくてこわい人。

エ いつもにこやかな顔をした、さわやかでやさしい人。

3 線2「前からの約束」について、次の①、②に答えなさい。

①「約束」の内ようを、次のようにまとめるとき、 に当てはまる言葉を、二十五字までで書きなさい。すぐ前の文と、線2を、くむ文の内ようをまとめる。

で	五	乗	夏	た	た	漁
る	年	せ	休	ら	ら	に
船	生	て	み	、	、	
に	の	や	に			
乗	夏	る	な			
せて	休		っ			
や	み		た			
る	に		ら			
	な		、			
	っ		漁			
	た		に			

例
20 10 25

という約束。

② タケルが、「父ちゃん」に約束を守ってもらおうと真けんになっていることがわかる行動を、

線2より前の部分から一文でぬき出し、はじめの五字を書きなさい。

それでぼく「まっすぐ目を見てたのんだ」から、タケルの真けんなようすを読み取る。

4 線3「はい！」とありますが、この部分を声に出して読むとき、どのような声の調子で読むとよいですか。最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 大きい声で、ゆっくりと読む。

イ 大きい声で、短くはっきりと読む。

最後の二文に、このときのタケルの気持ちを書かれています。ついに漁にできることをゆるされた、よろこびやきんちよう感を読み取る。

ウ ひくい声で、短くはっきりと読む。

エ ひくい声で、ゆっくりと読む。

